

# イエス・キリストと 一世紀の世界



クラス 2

2006年11月1日

# サマリアの地理



# サマリアの地理



12部族の時代では  
マナセ族(ヨセフ)

王の時代は北の  
イスラエルの土地

# サマリア人とは？

- 古代イスラエル(北の王国)の子孫。
- ゲリジム山(Mount Gerizim)を礼拝の拠点とし、聖書の神「YAHWEH」を拝んでいる。
- 現在でも600人ほどいる。



# サマリア人とユダヤ人との違い

- サマリア人は主の神殿がエルサレムではなく、ゲリジム山にあるべきであると信じている。  
(古代シェケム(Shechem)の近く)
- エルサレムで奉仕していた祭司ではなく、サマリアの祭司がアーロンを先祖としている祭司の本家だと信じている。
- モーセの5書のみを神の御言葉と認めている。ユダヤとは微妙に違うテキストがある。預言書やその他の旧約聖書の箇所をみとめていない。

# サマリア人の信仰の原則

- 1) 唯一の神： イスラエルの神
- 2) 唯一の預言者： モーセ・ベン・アムラン
- 3) モーセの5書を信じている
- 4) 唯一の聖地：ゲリジム山
- (復讐の日を信じている。「終日論」。ヨセフの子孫、モーセのような預言者「メシア」が現れるはず。)



# サマリア人の始まりの4つの説

- 1) 師士の時代-サマリア人は契約の箱がゲリジム山にあったが、悪の祭司エリがシロへと運んだ。そこからソロモン王が聖なる物をエルサレムに持ってきた。サマリア人の考えとしてここからユダヤ人との摩擦が始まった。
- 2) 聖書によると北のイスラエルが神様から離れ、神の契約を破り外国の人や考えを取り組む時からサマリアという民が誕生したと考えられる。





# サマリア人の始まりの4つの説

- 3) もう一つ聖書的な見解はイスラエルがアッシリアに征服され、捕囚となり、代わりに違う民族がその土地に住むようになった。
- 4) 紀元前330エルサレムの祭司の間で分裂が起こり、離れた人はサマリアに住み着いた。
- アレキサンダー大王に許可され、ゲリジム山のシェケムで神殿を建てた。ユダヤ人歴史者フラビウス・ヨセフスがこの節を確認している。





# サマリアとユダヤの間の摩擦

- 約440BC: ネヘミアの時代(ネヘミア4章)  
敵となるサンバラトがサマリアの軍と共にネヘミアの働きを反対した。この時点でサマリアは地名であり、必ずしもイエスの時代のサマリア人とは限らない。



# サマリアとユダヤの間の摩擦

- 168BC: セレウコス王朝のアンチオカス4世エピファネ王がユダヤ人に神殿をギリシャの神ゼウスを崇拝する所にするように命じる。彼は神殿の祭壇で豚をゼウスにいけにえとして捧げた。
- 南のユダヤはマッカビアンのユダにより戦い、自由をおさめる。ハスモニア王朝の始まり。
- 北のサマリアはセレウコス王朝の支配のまま  
でいる。宗教的だけではなく、政治的な摩擦  
になった。

# サマリアとユダヤの間の摩擦

- 128か107BC: ユダヤの指導者ヨハネ・ヒルカナスがユダヤの領土を広げた。サマリアを征服し、ゲリジム王の神殿が滅ぼされた(ヨハネ4章、サマリアの女の世代にはこの神殿は存在していない)。
- 摩擦の長い歴史がイエスの時代前にあった。自分の神殿が本物である、又は自分の国の祭司が本家の者である、又は自分たちが唯一の神を真に礼拝していると思っていた。



# サマリアとユダヤの間の摩擦

- ユダヤ人はサマリア人に対して、妥協した混血した不純な民だと思っていた。
- イエスは偏見を持たず、その当時の常識をくつがえし、サマリアの女との交流によって神様の栄光を表した。これは弟子たちにとって驚きであったはず。将来ペテロから始まり、異邦人に宣べ伝える時に忘れることのできない出来事だった。



# 一世紀のサマリアの教会

- ヨハネ4章— イエスのサマリアの女を通じての伝道によって信仰の種が与えられた。
- 使徒 1:8「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」
- 使徒8:1 大迫害でサマリアまで弟子が散った。

# 一世紀のサマリアの教会

使徒8:5 「フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。」

- 使徒8:14 「エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。」
- 使徒9:31 「こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地方で平和を保ち、主を畏れ、聖霊の慰めを受け、基礎が固まって発展し、信者の数が増えていった。」